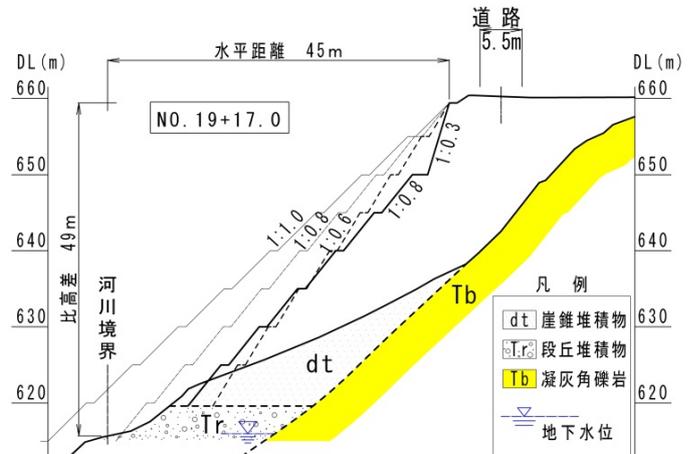
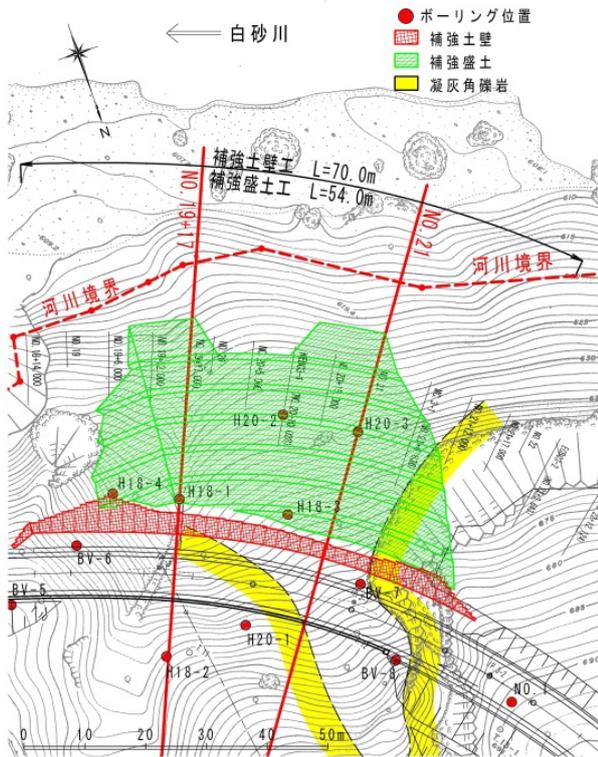
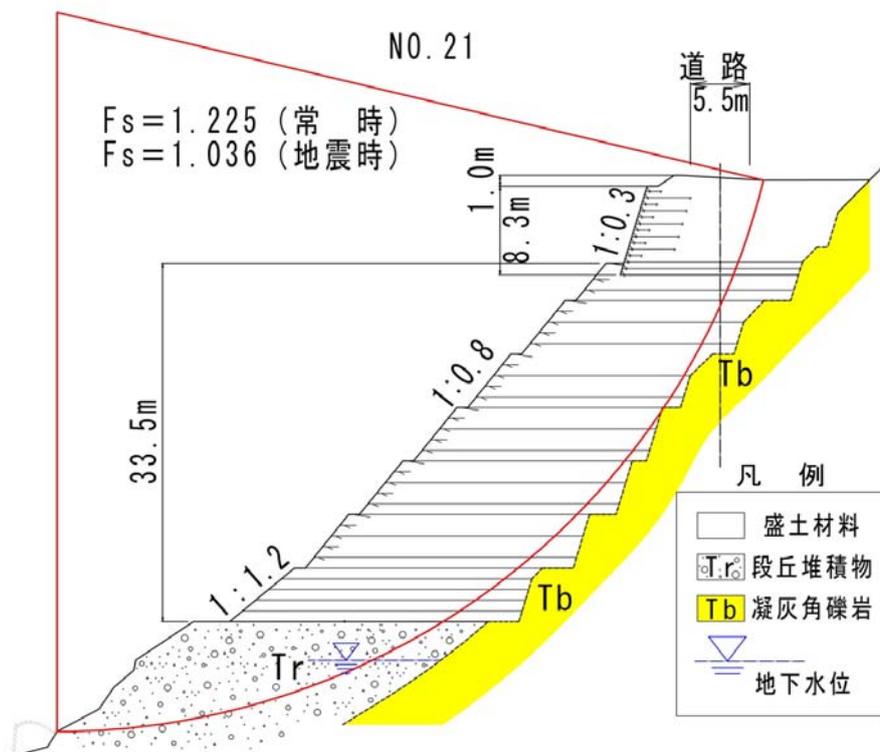


5. 補強土解析



左の平面図に示す河川に近接した道路改良で、橋梁との経済比較から補強土による高盛土が採用されました。右上の図に示すように、河川境界内で盛土を押さえるためには1:0.8勾配の補強盛土の上に補強土壁を考慮する必要があります。



補強土壁（高さ8.3m）と補強盛土（高さ33.5m）からなる複合構造物（合計の高さ約41.5m）の解析の一例として、円弧すべりによる安定解析の結果を上図に示します。段丘堆積物が固結状態であったことに加え、極めて良好な盛土材が得られたことが安定した高盛土に仕上げられた一因です。このため平成23年の大きな地震でもこの高盛土に変位は発生しませんでした。